

日医ニュース

2024. 1. 5 No. 1495

発行所 **日本医師会**
Japan Medical Association
〒113-8621 東京都文京区本駒込2-28-16
電話 03-3946-2121(代)
FAX 03-3946-6295
E-mail www.info@po.med.or.jp
https://www.med.or.jp/



トピックス	● 三師会合同記者会見 2面
	● 中医協総会 4～5面
	● 日本医師会10大ニュース 2023 8面

毎月2回 5日・20日発行 定価 2,400円/年(郵税共)

令和6年

年頭所感

公益社団法人 日本医師会 会長

松本吉郎



明けましておめでとうございます。会員の皆様におかれましては、健やかに新年をお迎えになられたこととお慶び申し上げます。本年の干支は「甲辰」です。「甲辰」は、「成」という芽が成長していき、姿を整えていく」という意味があるそうです。日進月歩の医療界において、本年は特にさまざまな変化を迎える、まさに画竜点睛とも言うべき年であり、今後の医療の発展に向けて、日本医師会は本年も尽力して参ります。

本年7月3日には新紙幣が発行されますが、新千円札の肖像には、日本医師会初代会長の北里柴三郎先生が採用されました。近代日本医学の礎を築いた北里先生は予防医学の重要性を説かれておりますが、我々もこの北里先生の志を受け継ぎ、治療を中心とした医療のみならず、予防・健康づくりにも引き続き貢献して参ります。

組織強化につきましては、日本医師会が令和5年度より実施した医学部卒後5年目までの会費減免の他、本会常勤役員による都道府県医師会役員への訪問・面会など、本会が実施するさまざまな取り組みに対し、各地域医師会の多大なるご理解とご協力を得る中で、その活動を深化させて参りました。こうした取り組みの結果、会員数も増加し、昨年8月には初めて17万5000人を超えるに至りました。より多くの先生方と共にわが国のより良い医療を実現するため、引き続き組織強化

に向けた活動を展開して参ります。また、患者さんの受ける診療・治療は連続したものであり、医療は各団体の連携によって支えられています。日本医師会、日本歯科医師会、日本薬剤師会の三師会、更に、日本病院会、全日本病院協会、日本医療法人協会、日本精神科病院協会の四病院団体協議会などの各種医療関係団体と共に、医療界は一体・一丸となって、これからの国民の生命と健康を守って参ります。

令和6年度診療報酬改定につきましては、物価・賃金の動向、保険財政や国の財政など、さまざまな主張や議論を踏まえた結果、賃上げ対応としてプラス0・61%、入院時の食費としてプラス0・46%、これらを合わせてプラス1・13%となった一方、適正化としてマイナス0・25%がなされ、結果として本体改定率はプラス0・88%となりました。

三師会、四病院団体協議会、国民医療推進協議会など、医療界が一体、一丸となって対応した結果だと考えております。また、各地域において、都道府県医師会・郡市区等医師会が、地元選出の国会議員の先生方に対して、医療が置かれている厳しい現状や医療施策への更なる理解を求める活動を実施頂いたことも大きな力になりました。

一方、本年4月からは医師の働き方改革の新制度が施行され、医師の時間外労働の上限

規制が開始されます。医師の働き方改革では、「医師の健康確保」「地域医療の継続性」「医療・医学の質の維持・向上」の三つの重要な課題にしっかりと取り組むことが重要です。日本医師会は、厚生労働省から指定を受けた医療機関勤務環境評価センターの業務を中心に医療機関及び勤務医の先生方を支援して参ります。

新型コロナウイルス感染症は、昨年5月に感染症法上の位置付けが5類感染症に変更されました。わが国は、国際的に見ても、コロナによる人口当たり死亡者数や陽性者の致死率の低さなど、相当の医療実績を積み上げてきました。これは会員の皆様を始めとする全国の医療機関の先生方による懸命な対応の賜物と考えております。深く感謝申し上げます。

特に、診療所に対応したコロナ患者及びコロナ疑い患者数は約7700万人にのぼる上、新型コロナウイルス感染症対応における外来対応医療機関（診療・検査医療機関）の数は約5万施設となりました。更に、これまでの新型コロナウイルスの接種回数は約4億3000万回に達しました。

昨年11月には、厚生労働省と本会を含め八つの医療関係団体と共に「ポストコロナ医療体制充実宣言」を公表し、次の感染症拡大への備えを先手先手で実施するため、新興感染症対応と医療DXの推進を集中的に進めることを表明いたしました。

また、本年4月より、改正感染症法に基づく医療措置協定が施行されるとともに、第8次医療計画が開始されます。日本医師会として、診療所の新興感染症への対応力を一層高めることを目的に、地域医師会のためのモデル研修を本年3月に実施予定です。会員の先生方におかれましては、日頃から地域にどっぷりつかり、地域住民の健康を守るため、さまざまな活動を通じて地域を面と

して支えて頂いており、地域医師会はそうした活動に深く関与しておられます。昨年より、国民の皆さんにそうした医師会活動を知ってもらうため、「地域に根ざした医師会活動プロジェクト」を開始しました。

その一環として、昨年10月には「有事の医師会活動」地域、住民を守る活動」をテーマとしたシンポジウムを開催し、大規模災害時やコロナ禍での医師会活動について情報を発信いたしました。本年3月には第2回のシンポジウムを予定しておりますが、今後も引き続き当該プロジェクトを進めて参ります。

昨年国内では、地震や台風、豪雨など、全国各地で大きな被害がもたらされました。これらの災害によって被災された皆様に、心からお見舞い申し上げます。

また、ロシアによるウクライナ侵攻、イスラエルとハマスの対立、隣国の脅威など、国際的にも予断を許さない状況にあるばかりでなく、地球温暖化等による異常気象の影響等についても注視していく必要があります。災害対策基本法上の指定公共機関である日本医師会は、今後とも大規模災害に備えて、組織づくりや災害医療研修の実施等の準備体制を更に進めて参ります。

また、医療DXは、日本医師会が目指す「国民・患者の皆様への安心・安全でより質の高い医療提供」と「医療現場の負担軽減」の実現に資するものでなければなりません。政府に對しては、サイバーセキュリティ対策も含めた、医療DXに掛かるコストに対する公的支援の拡充、並びに現場の負担軽減に向けた取り組みと情報発信を引き続き求めて参ります。

新しい年が会員の先生方お一人お一人にとって充実した幸多き年となりますことを祈念申し上げ、年頭に当たってのごあいさついたします。

本年もどうぞよろしくお願ひ申し上げます。

社会保障審議会医療保険部会・医療部会

令和6年度診療報酬改定の基本方針を了承

社会保障審議会医療保険部会並びに医療部会が昨年12月8日に相次いで開催され、当日示された「令和6年度診療報酬改定の基本方針（案）」を了承した。

診療報酬改定に当たって、点数や要件など、その内容に関しては中協協で決定することになるが、改定に関する基本方針については社会保障審議会医療保険部会並びに医療部会で決定することになっており、両部会ではその取りまとめに向けて、精力的に議論が行われてきた。

今回了承された基本方針では、「物価高騰・賃金上昇、経営の状況、人材確保の必要性、患者負担・保険料負担の影響を踏まえた対応」「全世代型社会保障の実現や、医療・介護・障害福祉サービスとの連携強化、新興感染症等への対応など医療を取り巻く課題への対応」「医療DXやインベ

「医療DXやインベ」の推進等による「質の高い医療の実現」「社会保障制度の安定性・持続可能性の確保、経済・財政との調和」を行うこととを、改定に当たっての基本認識として示している。

また、改定の基本的視点として、重点課題とされた「現下の雇用情勢も踏まえた人材確保・働き方改革等の推進」に加え、

「ポスト2025を見据えた地域包括ケアシステムの深化・推進や医療DXを含めた医療機能の分化・強化、連携の推進」「安心・安全で質の高い医療の推進」「効率化・適正化を通じた医療保険制度の安定性・持続可能性の向上」

改定の基本的視点

- 現下の雇用情勢も踏まえた人材確保・働き方改革等の推進（重点課題）
- ポスト2025を見据えた地域包括ケアシステムの深化・推進や医療DXを含めた医療機能の分化・強化、連携の推進
- 安心・安全で質の高い医療の推進
- 効率化・適正化を通じた医療保険制度の安定性・持続可能性の向上

「ポスト2025を見据えた地域包括ケアシステムの深化・推進や医療DXを含めた医療機能の分化・強化、連携の推進」「安心・安全で質の高い医療の推進」「効率化・適正化を通じた医療保険制度の安定性・持続可能性の向上」

「国民に調した。」「守り常任理事は、具体的な方向性の例に記載されている「医療従事者の人材確保や賃上げに向けた取組」について、更なる拡充を求めた他、「タスク・シェアリング/タスク・シフティング、チーム医療の推進」だけでなく、医療人材と賃金の確保が重要であると指摘した。

なお、基本方針の全文については厚生労働省のホームページをご参照願いたい。

「社会的弱者を対象とした研究」「医師とコンパニオンネットワーク・ユース」についてセッションが行われ、日本からは位田隆一国立大学協会専務理事、田代聡核戦争防止国際医師会議副会長（東アジア・太平洋地域代表）、橋爪真弘東京大学大学院医学系研究科教授、藤原康弘医薬品医療機器総合機構理事長が講演し、活発な意見交換が行われた。



世界医師会ヘルシンキ宣言大洋州地域専門家会議 「パンデミックと健康上の緊急事態」をメインテーマに開催



世界医師会ヘルシンキ宣言大洋州地域専門家会議（日本医師会・世界医師会・アメリカ医師会共催）が「パンデミックと健康上の緊急事態」をテーマに、昨年11月30日・12月1日の2日間にかけて都内で開催され、16カ国から約80名が出席した。

同会議は、1964年

「採択された一人を対象とする医学研究の倫理原則に関するヘルシンキ宣言」の改訂に向けて、今日のさまざまな倫理的課題への議論を深めるため、世界の各地域で開催されている専門家会議の一環として行われたものである。

今村英仁常任理事の司会で開会。開会あいさつを行った松本吉郎会長は、2024年に60周年を迎えるヘルシンキ宣言が世界の医療界において中心的なガイドラインとして役割を果たしていくため、パンデミック、地球温暖化、紛争などが医学研究に与える倫理的課

御 礼

本紙第1493号で、発熱外来などで防護服等を着用の上、検査・診察されている様子や集団接種会場などでコロナワクチンの接種に当たられた写真データを募集しましたところ、大変多くの先生方、医師会などから、たくさんの写真をお送り頂きました。深く感謝申し上げます。

提供頂いた写真の一部は、今後制作予定の動画や日本医師会公式YouTubeチャンネルで公開予定のシンポジウム「新たな感染症に立ち向かうために～新型コロナの教訓を踏まえて～」の中で活用させていただきます。

日本医師会広報課

開設者である医療法人が損害賠償請求を受けた場合の備えは大丈夫ですか？

日医医賠償保険は会員個人を対象としているため、法人に対して損害賠償請求を受けた場合、保険金が支払われない場合があります。

日医医賠償特約保険では、開設者である医療法人に対して損害賠償請求がされた場合にも保険金支払い対象となります。

日医医賠償特約保険 中途加入のおすすめ

日医医賠償保険の特色を継承し補完する日医A会員の任意加入保険です

加入を
おすすめする
A会員

法人の責任部分の賠償にも備えたいA会員

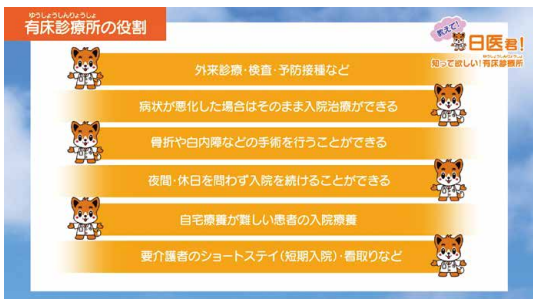
非A会員が起こした医療事故につき、開設者・管理者としての賠償にも備えたいA会員

高額賠償の支払い（1事故3億円、保険期間中9億円まで）に備えたいA会員



詳しくはこちら

動画「教えて!日医君! 知って欲しい!有床診療所」を日本医師会公式YouTubeチャンネルで公開中



日本医師会では、昨年12月4日の「有床診療所の日」に合わせて、動画「教えて!日医君!知って欲しい!有床診療所」を制作し、11月24日から日本医師会公式YouTubeチャンネルで公開しています。

今回の動画は、日本の医療施設には、地域医療で大きな役割を果たしている「有床診療所」があるということをご一般の方々にも知ってもらうことを目的として制作したものです。

動画の中では、日本医師会の公式キャラクターである「日医君」が「有床診療所の名称の意味」「有床診療所の原点」「有床診療所が果たしている役割」等について分かりやすく解説している他、全国にある「有床診療所」を紹介するため、徳島県にある鈴木内科、茨城県にある吉成医院に協力頂き現地取材した様子を、各医療機関の院長先生らのインタビューも交えながら、映像でご紹介しています。ぜひ、ご覧下さい。

食当たり約482円と比べても22円の差がある」ことなどを示して、食材費等の高騰を踏まえた対応を行う観点から、入院時の食費を30円引き上げることなどを提案。診療・支払両側から異論は出さず、了承された。

議論の中で、長島常任理事は、①経営努力のみでは食事療養の提供が難しい②病気治療の一環として重要な食事療養の質の低下を意味する——ことなどを説明。引き上げに理解を求めるとともに、その実施に当たって、丁寧な周知を求めた。

また、診療側の池端幸彦委員は、自己負担が30円上昇することになると、低所得者に対する丁寧な対応を検討するよう要請した。

総会(13日)

13日の総会では、公益側委員から、医療経済実態調査、薬価調査及び材料価格調査の結果等を受けて行われた審議を踏まえて作成した、令和6年度診療報酬改定に関する意見書案が示された。

その中では、世界に冠たる国民皆保険を堅持し、あらゆる世代の国民一人一人が安全・安心で効率的・効果的な質の高い医療を受けられるようにすることが必要であり、医療を取り巻く環境の変化や多様な国民のニーズに柔軟に対応することが重要とした上で、中

認知症治療薬の保険適用を了承

「令和6年度診療報酬改定の基本方針」に基づき、全ての国民が質の高い医療を受け続けるために必要な取り組みについて協議を真摯に進めていくことの基本認識については、診療・支払両側委員の意見の一致が見られたと指摘。その一方で、令和6年度診療報酬改定に臨む考え方には意見の相違が見られるとして、診療・支払両側の意見を両論併記した。

議論の中では、診療・支払両側からは異論は示されず、意見書案は了承された。ピーク時(2031年)の市場規模は、年間の患者数が3.2万人、売り上げが986億円と予測されている。

今後は、投与対象の患者要件と医師・施設要件などを定めた最適使用推進ガイドラインを策定、その内容を基に保険診療上の注意事項を定めた留意事項通知が発出されることになっている。

「アルツハイマー病による軽度認知障害及び軽度の認知症の進行抑制」となっており、ピーク時(2031年)の市場規模は、年間の患者数が3.2万人、売り上げが986億円と予測されている。


「本薬の効能・効果はアルツハイマー病による軽度認知障害及び軽度の認知症の進行抑制」となっており、ピーク時(2031年)の市場規模は、年間の患者数が3.2万人、売り上げが986億円と予測されている。

「本薬の効能・効果はアルツハイマー病による軽度認知障害及び軽度の認知症の進行抑制」となっており、ピーク時(2031年)の市場規模は、年間の患者数が3.2万人、売り上げが986億円と予測されている。

南から北から

愛媛県
新居浜市医師会報
第799号より

けんのみち
平井 公一



けん玉を始めた。

コロナ禍で遠方にいる娘や孫達にはずっと会えないでいる。しかしながら、娘が毎日欠かさず、動画や写真を送ってくれていて、最近送ってきた動画の中で孫娘がけん玉で遊んでいたのだ。感化された。

たまたまわが家にけん玉発祥地、廿日市市産のけん玉があった。子どもの頃、いろんな遊びをしたが、不思議とけん玉をした覚えがないので、遊び方が分からない。分からないままに、大皿↓小皿↓大皿↓小皿(けん玉協会のHPを見て知った部位の名称)と代わる代わるカチカチと自己流でひっくり返していたら、十数回は続いた。慌てて動画を撮ってもらった。送信すると「じいちゃん、すごい」と言ってくれて、大満足。


気を良くして、けん玉協会のHPを見ると、何と持ち方や技がまるで違っていたし、十数回続いたことなんて、大した事じゃなかったような気がした。それでも、膝の屈

と自己申告している。真面目(?)に練習を続けているうちに、腰や膝が痛くなってきた。そろそろ、けん玉協会推奨の持ち方や技を練習してみようかという殊勝な心持ちになってきた。何事も基礎が大切。いつか孫達に会える日に備えて、剣(玉)の道を究めんと欲する日々である。

じいちゃんの動画も撮って。何十回できたんよ〜」

秋田県
大北医報
NO.293より

トイレの神様のおはなし
佐藤 誠



いつからでしょうか?

トイレ掃除が好きです。朝一もすがすがしいし、帰宅後すべも良いですよね。今はまだ初級レベルなので流せるシートを多用していますが、「いつかは素手で」とも思っています。

のコントで、ポットン便器からお化けの手が出てきたのがトラウマになり、夜の外のトイレが怖かった時期もありました。が、飼犬をトイレまで連れていくことが親から許可され、すぐにまた憩いの場になりました。

幼少期からトイレが好きだったのだと思えます。給食を残すことが許されなかった小学校時代、乳糖不耐症の私は5時間限を決まっ和式トイレで過ごしていました。授業中のトイレはいくらも上からのぞいたりする心配もないので、開放的で優雅な時間でした。ドリフの大爆笑

力です。

このルーチンを日々繰り返すようになってから、大変光栄な仕事の機会を頂き、家族の会話が弾み、披露宴の余興が大成功し、良い事が続いています。本田宗一郎さんや松下幸之助さんがトイレ掃除を大切にしていたというの有名な話。トイレを磨けば磨くほど、人間関係や仕事の縁に恵まれたり、お金が舞い込むという話も「金運」運呼ぶ的な単なるダジャレなどではなく、脈々と先人から言い伝えられている神様の功德のような気がしています。

植村花菜さんの「トイレの神様」では、奇麗な女神様がべっぴんさんにしてくれると歌っています。「弁財天」が見守ってくれているなんてありがた話です。曹洞宗の開祖である道元禪師は、あらゆる不浄や穢れを焼き払う炎の神様「烏板沙摩明王」をお祀りし、トイレ掃除も重要な修行と位置付けたそうです。私の家にとちらの神様がいらっしゃるのかは分かりませんが、トイレ掃除は心の掃除。神様からのご利益、妻からのお小遣いを期待してトイレ掃除をするのではなく、毎日何度も世話になっていくトイレに対する感謝を込めて掃除します。水、健康、家族……感謝で満たされながら掃除に没頭すると、自然とすがすがしい気分になるのです。

最後に、秋田大学生時代に一度だけ「トイレの神様」の存在を確信した時のお話を紹介します。手形山崎で試験の打ち上げをやっていた時だったと思います。相変わらずお腹がゆるキャラの私は、ゲOPとなりギリギリセーフで個室に駆け込みました。冷静になってみましたが、「トイレレットペーパーが無い……」。しかしそこには神がいます。

宮城県
仙台市医師会報
NO.707号より

言った! 言わない!
山口 洋



還暦を過ぎた我々夫婦

は、「言ったよね」「言っていない」「聞いていない」「聞いていない」といった不毛な議論をこのところしょっちゅう繰り返している。

例えはこの家庭にもありそうなことだが、私が妻に「歯磨き粉が少なくなったから買っておい」と言ってもなかなかすべには買ってもらえない。妻は「忙しかった」とか「早めには言ってくれない」となごは言いが、決して「忘れていた」とは言わない。そのうち「絞ればまだ使えるでしょ」などのたまう。いやいや話をすり替えないでと思う。妻はというと、私に「明日ゴミ袋を出動の時に出してね」と言っている。私には「分かった」と返事をした。しかしゴミ袋を家の物置に置いたまま出動してしまったりする。時には出勤時に車のトランクにゴミ袋を入

るのだがそのままゴミ集積場を素通りして職場に行ってしまう。ハッと思い出して、厚みみに出せるゴミ集積場を求めてさまようハメになる。これらはささいなことではあるが、若い頃には無かったことであり、お互いに自分のことを棚に上げて相手の劣化を嘆く始末である。しかし、「言った」「言わない」の口論もより深刻なのは、言われたこと自体を覚えていない時である。これが一番やっかいであり議論が白熱するのである。結局、この不毛な議論にケリをつける方法としてたどり着いたのは、娘に証人になってもらうことである。わが家では大事な話ほど娘の立ち会いの下でお互いに告げるようになっていく。娘は公平であり「お父さんは確かににお母さんに言っていた」とか「お母さんの話をお父さんは聞いていた」と第三者としてシャッしてくれる。

五分かあるいは私の方が劣性だとのことである。私としてはほとんど自分の方が正しいと思っていたので納得のいかない評価である。

まあ、こんなことは内輪のごで慣れっこであるが、他の人を巻き込んだりするのは困りものである。先日妻が病院のスタッフに対して「院長(私)は今年の夏休みは例年より多く考えている」と告げてしまった。私は事務長である妻にその考えを提案したことは確かに覚えているが、スタッフには断じて言っていない。しかし妻は、私に「さばら前にスタッフにも話を聞いて、皆もそのことを楽しみにしている」と言っていて譲らない。結局今回の件は、妻が仕組んだのではないかと疑いながらもスタッフには少し長めの休暇を取ってもらうことにした。こんなふうには誰かが喜んでくれるようなことならまだしも、自分が覚えていないことで他の人に迷惑が掛からないように、私も妻もこれから一層気を付けなければならぬ。

まあこの先も私達夫婦のこの言い争いは続くであろうが、時は公平に流れる。互いの老いを受け入れながら仲良くやっていくしかあるまい。アッ、しまった、今日もまたゴミ袋を出すのを忘れてしまった……。

10 日本医師会 2023 大ニュース

1 医療界が一体、一丸となって適切な財源の確保を求め診療報酬本体のプラス改定を獲得



令和6年度診療報酬改定に向けて、岸田文雄内閣総理大臣に三師会の会長連名の要望書を昨年11月15日に手交した他、日本医師会として、日本歯科医師会、日本薬剤師会と共に11月10日に、四病院団体協議会と共に11月15日に相次いで記者会見を開催。また、12月4日には「国民医療を守るための総決起大会」を日本医師会館大講堂で開催する(写真)など、医療界が一体、一丸となって適切な財源の確保を求め、診療報酬本体のプラス改定を獲得した。

2 4名の常任理事が新たに選任・選定される

昨年6月25日に日本医師会館大講堂で第154回日本医師会定例代議員会が開催され、新たに4名の常任理事(坂本泰三、濱口欣也、笹本洋一、佐原博之の各氏)を選任・選定することが賛成多数で承認された。4名の常任理事は主に組織強化を担当、それぞれ分担する地域を積極的に訪問し、日本医師会への入会促進に向けた協力を要請した。



3 日本医師会の会員数が初めて17万5,000人を突破

日本医師会の会員数が昨年8月末時点で初めて17万5,000人を超えた。この結果を受けて、松本吉郎会長は9月6日に記者会見を行い、その要因として、(1)会費減免措置を令和5年度より医学部卒業後5年目までに延長、(2)日本医師会の常勤役員が全国の医師会などを訪問し、協力を要請——したことを挙げるとともに、今後も組織強化に向けた活動の強化を図る意向を示した。

4 「地域に根ざした医師会活動プロジェクト」を開始



地域にどっぷりつかり、地域住民の健康を守るため、各地の医師会が行っている活動を広く国民に知ってもらうことを目的として、「地域に根ざした医師会活動プロジェクト」を開始することを決定。具体的な取り組みの第1弾として、昨年10月11日には「有事の医師会活動～地域、住民を守る活動～」をテーマとしたシンポジウムを日本医師会館大講堂で開催した。

5 シンポジウム「未来ビジョン“若手医師の挑戦”」を初開催

全国各地で活躍する若手医師の取り組みを取り上げ、その思いを共有する中で、国民の信頼に応えていく医療の未来ビジョンを探ることを目的として、シンポジウム「未来ビジョン“若手医師の挑戦”」を昨年6月11日に日本医師会館大講堂で初めて開催した。



6 診療所の新興感染症対策強化に向けた支援を強化

日本医師会として、診療所による新興感染症対策を積極的に支援していくことを目的として、本年3月24日に日本医師会館において「診療所を対象とした新興感染症対策研修」を開催することを決定。会内に「診療所における新興感染症対策研修検討委員会」(プロジェクト)を設置して、研修内容等の検討を始めた。

7 自見はなこ参議院議員が初入閣

第2次岸田第2次改造内閣が昨年9月13日に発足し、自見はなこ参議院議員が内閣府特命担当大臣(沖縄及び北方対策、消費者及び食品安全、地方創生、アイヌ施策)、国際博覧会担当として、初入閣を果たした。日本医師連盟推薦の議員が大臣に就任するのは初めてのこととなる。



8 情報発信メール「日本医師会の方針」の配信を開始

松本会長の発案により、都道府県医師会役員並びに日本医師会代議員へのメール配信「日本医師会の方針」を昨年2月から開始した。日本医師会の方針や取り組みの中で、特に重要かつ迅速性を有する情報を配信しており、情報を共有することで全国の医師会などと更なる連携を図ることを目的としている。

9 サイバーセキュリティ対策の強化を図る

医療機関を標的としたランサムウェア攻撃やEmotetを始めとする標的型メール攻撃が多発化していることを踏まえ、サイバーセキュリティ対策の強化を図るため、昨年4月25日に「日本医師会及び警察庁サイバー警察局長の連携に関する覚書」を締結した他、「日本医師会サイバーセキュリティ支援制度」の支援内容の拡充を行った。また、その内容を説明した動画を制作し、日本医師会公式YouTubeチャンネルで公開した。

10 武見国際保健プログラム設立40周年を記念してシンポジウムを開催

ハーバード大学公衆衛生大学院武見国際保健プログラムが設立されてから、昨年で40周年を迎えたことを記念して、昨年11月11日に日本医師会館大講堂で、「デジタルヘルス：地域医療にとっての機会と課題」をテーマとしたシンポジウムを開催した。

